

# スッポンMジョイント® 施工手順

塩ビ・鋼管用 (異形管)

注1) 分解せずに接合して下さい。

注2) 新型仮止めスペーサ付き。

標準位置 異形管用K寸メジャー  
40  
50  
75  
100  
150  
(管端側)

## 1 パイプ挿入量記入



パイプ挿入量(K寸)を測り、標線を記入して下さい。  
(管切断のカエリは取り除く)  
※ [K寸メジャー] 又は [K寸の表] 参照  
異形管 MVF, MVB, MVT など

■ K寸の表

呼び径	K(mm) $+10$ $-0$
	異形管
40	105
50・65	135
75	145
100	165
125	170
150	185

## 5 ストップリング本締め



塩ビ管の場合はストップリングの先端があたるまで締付ナットを本締めする。  
※ 鋼管の場合は [標準締付トルク表] 参照、先端はあたりません。

## 2 パイプ挿入



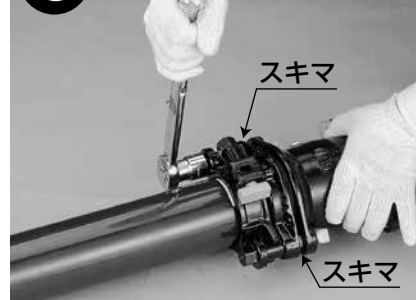
分解せずに継手を標線まで入れ、仮止めスペーサを取り外します。  
・外れにくい場合は締付ナットを少し緩める。  
・仮止めスペーサを先に外しても良い。

## 4 ストップリング締め付け



押輪と接した状態で、ストップリング上部を押さえながら、ストップリング締付ナットを締め付けて下さい。

## 6 押輪本締め



押輪締付ナットを数回にわたり均等に本締めして下さい。  
(標準締付トルク表参照)

## 3 パイプ仮固定



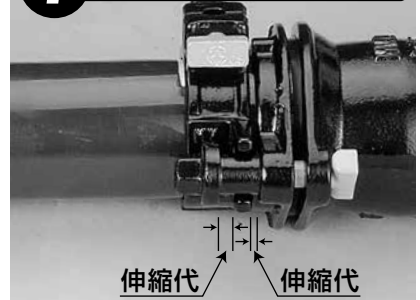
ストップリングは押輪と接した状態で標線と合わせます。  
パイプが仮固定するまで、押輪締付ナットを軽く締めて下さい。

■ 標準締付トルク表 [N・m]

呼び径	押輪	ストップリング	
		塩ビ管	鋼管
40	25	あたるまで締めて下さい。 ストップリング先端が	25
50~75	40 ↳ 60		50
100			60
125・150			80

注3) 締付トルクの幅は裏面参照

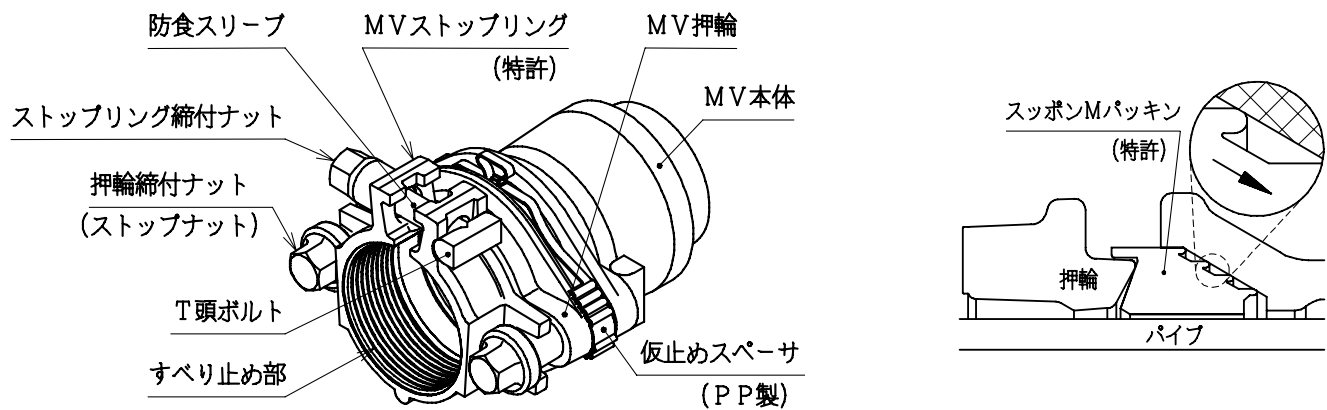
## 7 施工完了



接合完了  
「伸縮代」が出来ていることを確認する。

# 1. スッポンMジョイント®の各部名称

20161001



**注意) 仮止めスペーサを取り外し、締め付けて下さい。**

## 2. 施工注意事項

### 1) ストップリング標準締付トルク表 (N・m)

呼び径	ストップリング標準締付トルク(N・m)					ストップリング締付ボルト・ナットサイズ	対辺
	VP	VU	VT	VH・SGP			
40	25(参考)	—	—	—	25~30	M10	17
50	ストップリング先端が当たるまで締めして下さい。	ストップリング先端を1.5mm程度あげて締めて下さい。	20(参考)	ストップリング先端が当たるまで締めして下さい。	60(参考)	M16	24
65		—	—		50~70		
75		ストップリング先端を1.5mm程度あげて締めて下さい。	20(参考)		80(参考)		
100	60(参考)	25(参考)	80(参考)	80~100	80~100		
125	60(参考)	ストップリング先端が当たるまで締めして下さい。	60(参考)	80~100	80~100		
150							

※太字：基準値

#### ⚠ 注意

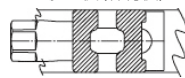
- ・SGP・VU(50~75)・VT(150)・VHの場合はストップリングの先端は当たりません。無理に締め付けようとすると破損の原因となります。
- ・ストップリング先端締付状態

VP・VU(100~150)・VT(50~125)の場合  
施工後(締付後)



先端が当たります

VU(50~75)・VT(150)・VH・SGPの場合  
施工後(締付後)



先端は当たりません

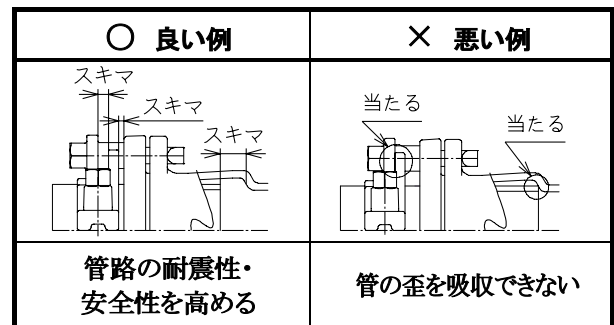
- ・ストップリング標準締付トルクを参照して下さい。

### 2) 押輪標準締付トルク表 (N・m)

呼び径	押輪締付トルク(N・m)				押輪締付ボルト・ナットサイズ	対辺
	VP	VU	VT	VH・SGP		
40	20~25~30	—	—	20~25~30	M10	17
50	35~40~60	10~15~20	35~40~60	35~40~60	M16	24
65		—				
75		30~40~60				
100	40~50~60	40~50~60	40~50~60	40~50~60		
125	40~60~70	40~60~70	40~60~70	40~70~80		
150						

※太字：基準値

### 3) 施工後 (パイプと継手の位置関係)



- すでに面取りされた塩化ビニル管と接合する場合は、K寸+10に標線を入れてください。
- インパクトレンチにて施工される場合は対角のナットを交互に均等になるように締め付けてください。
- 伏せ越しなどでストップリングの締付ナットの方向を変えたい場合は、管を差込む前に、一受口で一本の押輪用締付ナットを外すと、ストップリングは外れ、容易に向きをかえることができます。
- 呼び径75の場合、ストップリングのT頭ボルトと締付ナットを外し、配置をかえて締め付けることができます。
- 離脱防止金具(VP)の耐圧性能は4MPa(1分間)以上あります。(但し、許容水圧は1MPa)
- 再施工の場合、継手を分解せずに、ボルト・ナットを緩めるだけで管と継手の分解が行えます。
- 再組立する場合はあらかじめ本体、ゴムパッキン、押輪、SRを仮組立し、芯出しパッキンのリブが断面図のように押輪のパッキン当たり部の外周にできるようにセットし、仮止めスペーサをつけて、軽く仮締めしてください。

#### ⚠ 注意

- ・外面被覆鋼管の接合にはPD・VP用スッポンMDジョイントをご利用ください。
- ・ポリエチレン管・ステンレス管の接続にはPE用ストップリングをご使用ください。